



本校のカリキュラムで学んでいる子供たちに
「学校で楽しいと思うのはどんなとき？」と聞いてみました

みんなで 6年 力を発揮
 自分たちで 挑戦
 より深く 追究できる
 答えが浮かぶ 好きなことを

学び（カリキュラム）が自分たちの手にあると自覚

文部科学省 研究開発学校指定 平成27年～平成30年
 文部科学省 研究開発学校指定 延長 令和元年～令和4年 **8年間の研究**

未来社会を生きる子供に必要な資質・能力は何か

**その育成のために
 学校教育は何をすべきか
 教師はどのようにあるべきか**

2

福岡小の研究開発課題は？（仮説として）

研究開発課題 未来社会を創造する主体に必要となる**①非認知能力を重視した資質・能力**を育成するため、**②子供の文脈を中心に据えた③7つの新教科の枠組み**を構築する研究開発

教育課程の特例

- ① 本校独自の資質・能力の規定
- ② 教科の本質である見方・考え方を基にした7教科の枠組み
- ③ クラブ活動に代わる4～6年生の「チャレンジ」の設定

3

学校教育目標 研究主題 未来社会を創造する主体の育成

特例① 本校独自の資質・能力の規定

【本校の研究】
人間存在の原理
・実的存在
・社会的存在
・文化的存在

OECD Education2030

省察性
協働性
創造性

創造性
知をつないだり、組み合わせたりしながら新たな知を創る

省察性【非認知能力】
自己をあるがままに認め、これからの志を明らかにする

協働性【非認知能力】
異なる他者を受け入れ、力を合わせる

現行との関係
知識及び技能
思考力、判断力、表現力等
学びに向かう力、人間性等

<特徴>
○ 非認知能力を「自己」と「他者」に向き合う2つの資質・能力に分けて設定
○ 認知に関わる資質・能力を一体として設定

非認知能力を重視した資質・能力の育成のためには？

資質・能力を育成する独自のカリキュラム

資質・能力を育成する独自のカリキュラム

何をよりどころに教育課程を編成するのか

一般的には

子供の欲求 現実社会への対応 文化継承・発展

教育する側の論理（≒コンテンツベース）

子供の文脈 を中心（≒コンピテンシーベース）

子供の文脈とは、子供が学習の意義（レリバンス）を感じ、学ぶ対象を選択したり、自分の学びを評価したりしながら学びをコントロールするプロセスのこと

※ 教師と子供の間で発展していくという考えから研究主題は「教育課程」ではなく「カリキュラム」

子供の文脈を中心にするには、シンプルな教科編成が必要

子供の文脈を中心にするための、シンプルな教科編成

何をよりどころに教科を編成するのか

未来社会を生きる子供に必要な「見方・考え方」

※各教科の学問原理"discipline"としての見方・考え方

特例② 教科の本質である見方・考え方を基にした7教科の枠組み

育みたい3つの資質・能力
省察性
協働性
創造性

見方・考え方を基にした7教科
健康
科学
芸術
人間
言葉
社会
数学

<特徴>
○ 7つの見方・考え方から教科を設定
○ 3つの資質・能力に対応
○ それぞれの教科に主として育む資質・能力が存在
○ 全学年共通

※7つの見方・考え方は添付資料1.2参照

子供の文脈を中心にするための、シンプルな内容設定

教科の本質である「見方・考え方」を基にした内容設定

知の構造

見方・考え方
教科の本質

概念 方略

事実的知識 事実的知識 個別スキル 個別スキル

VUCAの時代でも必要となるであろう部分

つよめる

へらす
変化の中で必要となくなるかもしれない部分

<特徴>
○ 方略と概念で内容を設定
○ 全教科統一した記載方法
○ 個別の知識やスキルの記載はカット

本校版の学習指導要領上の内容の示し方
詳細は添付資料3,4,5,6

「○○を通して、□□に気付く・理解する」

方略 概念

子供の文脈を中心にした個の資質・能力育成に特化した時間

特例③ クラブ活動に代わる4～6年生の「チャレンジ」の設定

<令和4年度のチャレンジ>

教科	チャレンジ名
言葉	言語文化
数学	MOM
科学	科学・実験
芸術	ミュージック
芸術	アート
健康	ダンス
健康	ロープジャンプ

※チャレンジ1つに1～2名の職員を配置

<特徴>

- 毎週2時間、年70時間設定
- 4～6年生が参加
- 自分が希望するチャレンジに基本的に1年間在籍
- 自分が関心のあるテーマを個人、またはグループで探究
- 発表会や展示会など、成果を披露する場を設定

8

何をどのように位置付け、運用し、評価改善するのか

学校現場だからこそできる試行錯誤!

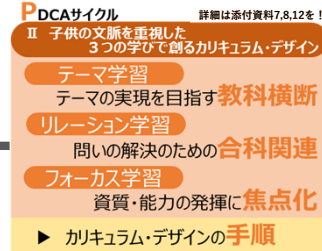
子供の文脈を重視した教科横断や合科関連はどうすれば生まれる? 手順は?

子供の姿からカリキュラムを評価するにはどうすればよい? カリキュラムを改善するって?

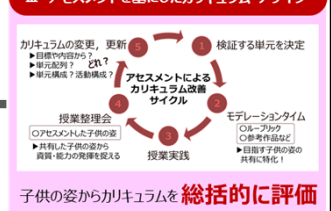
PDCAサイクル

特例②
7つの教科
▶ 内容の設定

特例③
チャレンジ



PDCAサイクル 詳細は添付資料9,10,11を!



持続可能なカリキュラムにするための手順やシステムの構築

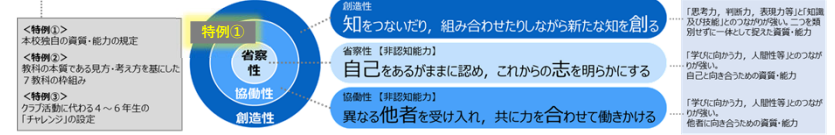
9

研究の全体像について

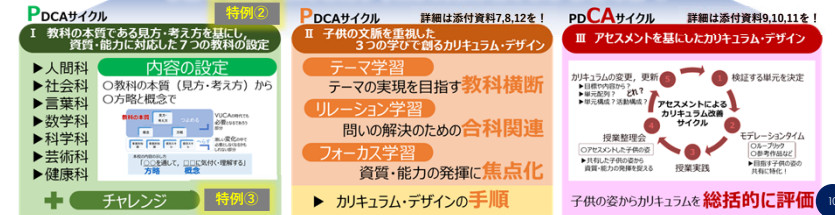
【研究開発課題】未来社会を創造する主体に必要な非認知能力を重視した資質・能力を育成するため、子供の文脈を中心に据えた7つの新教科の枠組みを構築する研究開発

学校教育目標

研究主題 未来社会を創造する主体の育成



資質・能力を育むカリキュラムとはどのようなものか?



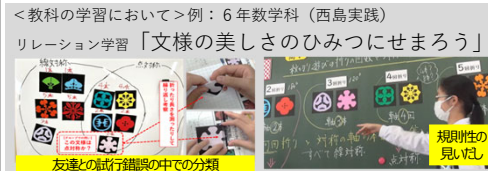
10

<研究開発を行う中で明らかになってきたこと>①-1

実践の詳細は添付資料13を!

特例① 本校独自の資質・能力の規定 について

非認知能力に関する資質・能力を「自己」と「他者」に分けて設定することで、学習の中に資質・能力の発揮場面を意図的に設定しやすくなり、評価しにくい非認知能力の評価をしやすくなるのが考えられる。
※この場合の「評価」は「評定」の意味ではない。



手立てとして協動的な活動を設定するのではなく、目標として他者に向き合う資質・能力を設定することで、他者の存在の意義を子供が自覚し、教師も学習に明確に位置づけることができる

<年間の取組>例: 5年人間科(小島実践)



自己、他者に分けると、子供とも資質・能力の共有が容易になった

11

<研究開発を行う中で明らかになってきたこと>①-2 実践の詳細は添付資料13を！
 科学科の実践事例も掲載

特例① 本校独自の資質・能力の規定 について

認知能力に関わる資質・能力は「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に分けず一体的に設定することで、より探究を重視した授業づくりが進むことが考えられる。

<目標のルーブリック化>例：2年健康科（古賀実践）フォーカス学習「力を合わせてボールエネルギーを集めよう」

認知に関わる資質・能力を分けないことで、見える子供の姿を評価し、カリキュラムや学習構成に生かすやすくなる（子供の育ちを基にした学習づくり）

空間 ◎ 選んだ動きでスペースを活用する動きを表出

<研究開発を行う中で明らかになってきたこと>②-1 実践の詳細は添付資料13を！

特例② 教科の本質である見方・考え方を基にした7教科の枠組み について

全ての教科の内容の記載を「概念」と「方略」で統一することによって、内容の重なりが整理されると共に、学習内に埋め込むべきことが明確になることで焦点化された学習を実現することができる。

<学習の様子>例：6年言葉科（大村実践）「心を動かすプレゼンテーション」

主張するところで声を大きくしていたので視線がもっと相手に向かないと思う。聞き手の評価

内容をシンプルに整理することで子供が求める学習の中に内容をどのように埋め込むか考え、内容を通して資質・能力の育成を目指すことを意識しやすくなった

<研究開発を行う中で明らかになってきたこと>②-2 実践の詳細は添付資料13を！

特例② 教科の本質である見方・考え方を基にした7教科の枠組み について

見方・考え方を基に各教科を設定し、6学年共通で設定したことによって、教科の独自性が際立ち、子供たちの求めに応じながら教科横断や合科関連的な学習展開が可能になることが考えられる。

<教科開きの様子>例：4年言葉科（中河原実践）4月最初の教科開き【子供に開くカリキュラム】

<学習をふりかえる様子>例：4年人間科（宇戸実践）テーマ学習「成長するわたしたち」

子供とカリキュラムを共有したときに子供が教科間・学年間のつながりを見いだす

教科の枠を超えた学びを子供が意識して選択したり、評価したりすることができる

<研究開発を行う中で明らかになってきたこと>③ 実践の詳細は添付資料14を！

特例③ クラブ活動に代わる4～6年生の「チャレンジ」の設定 について

子供が課題設定から探究できる時間の設定は教科の学びを土台にした資質・能力の一層の発揮につながり、個別最適な学びが推進されると考えられる。

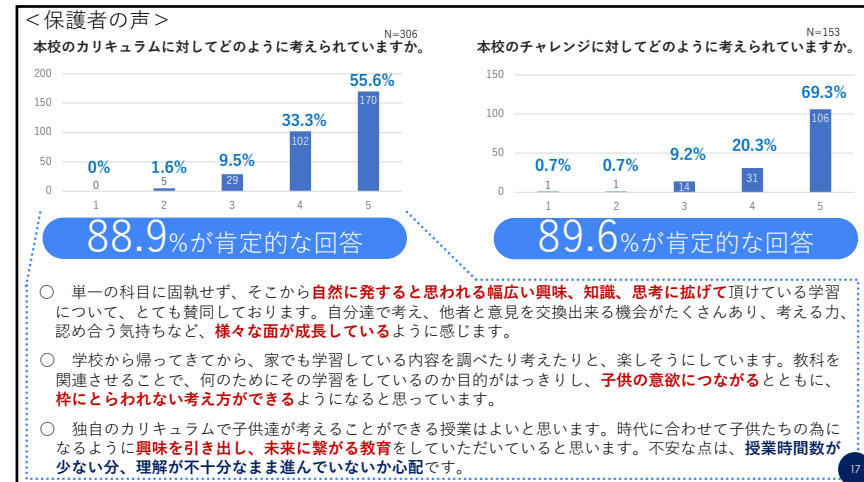
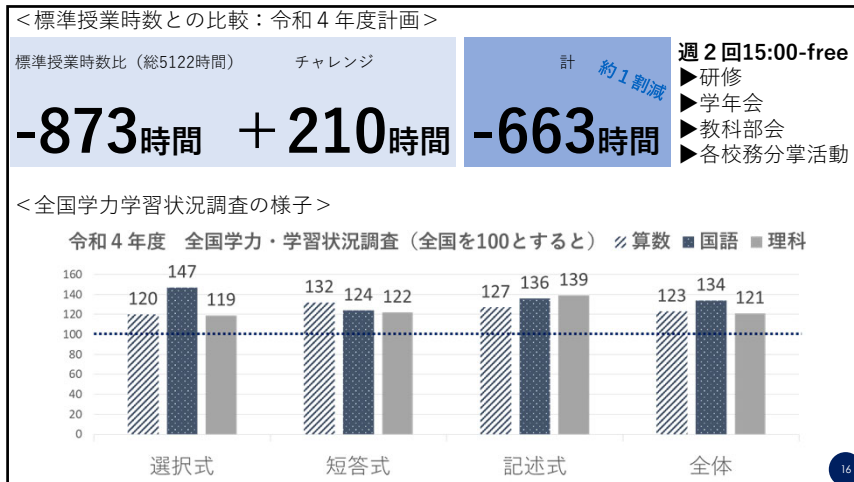
<チャレンジの様子>例：チャレンジ論文（言語文化）

チャレンジの時間は楽しみですか？

回答	人数	割合
1	1	0.7%
2	1	0.7%
3	2	1.4%
4	23	16.4%
5	113	80.7%

○ 普通の授業とは別に自分たちが追究したい問いを最後まであまり先生を頼らずに、他の学年の人と一緒に自分たちだけで追究できる。

○ 自分が不思議だなと思うことを、色々と調べ、分らなかったことが、分かるようになるから、私は、チャレンジの時間が楽しみです。



<見えてきた課題と今後の方向性>

特例② 教科の本質である見方・考え方を基にした7教科の枠組み について

▶ 子供にとって「教科」の捉えは、資質・能力の違いよりも内容や学習対象によるところが大きい

→ 「芸術科」を新設したが、子供たちは時間芸術である「音楽」と空間芸術である「造形」を一体として捉えることが難しかった。

特例③ クラブ活動に代わる4～6年生の「チャレンジ」の設定 について

▶ それぞれのチャレンジにおける子供の資質・能力の発揮の評価や蓄積の在り方の検討が必要（スタディ・ログの活用）

▶ 個の探究における子供同士の関わりや教師（学校）の役割などの検討が必要（個別最適な学びの充実のための方途，GTの一層の活用）

→ 発揮，育成された資質・能力や捉えた内容を共有したり，蓄積して次年度に活かしたりすることが難しかった。

福岡で待ってーけんね！来てくれたら、めっちゃ嬉しー！
(福岡で皆様のお越しをお待ちしております。皆様とお話できるのを楽しみにしております。)

福岡教育大学附属福岡小学校

文部科学省研究開発学校指定 延長4年次（最終年度）

令和4年度 教育研究発表会Ⅱ
令和5年2月23日（木・祝）

未来社会を創造する主体を育成するカリキュラム・マネジメントⅣ

- ▶ 合計8本の学習公開
- ▶ 教科研究発表／教科別協議会
- ▶ 参加費・資料代 3000円
(特設サイトにて、11月に公開した授業・指導案等もご覧いただけます)
- ▶ 11月の発表会に参加された方は11月19日にお知らせしました「割引コード」を入力すると無料になります。

未来社会を創造する主体に育みたい3つの資質・能力

1 3つの資質・能力に対応する7つの教科

2 子供の文脈を基にした3つの学びで斬るカリキュラム・デザイン
テーマ：学習、ルーティン学習、フォーカス学習

3 アセスメントを基にしたカリキュラム・デザイン

現在、申込受付中

シンポジウム
テーマ これからの学校教育の在り方
～福岡小の研究が世に問うこと～

コーディネーター 国立教育政策研究所 福本 徹 総括研究官
上野大学 常須 正裕 教授
シンポジスト 慶応大学 田村 学 教授
京都大学 石井 英真 准教授

ご清聴ありがとうございました

本校の最新の情報はコチラから

ホームページ



附属福岡小HP 附属福岡

Facebook



附属福岡小facebook 附属福岡

YouTube
チャンネル



附属福岡小学校Youtube子









視察の受入申込はこちらから
「地域貢献」のタブをクリック

資料

資料 1 7つの見方・考え方や教科	
7つの見方・考え方	教科
【よりよい自己へと向かう見方・考え方】 集団や社会の中で自明とされる価値やことがらと向き合い、理性や感性を基に批判的思考を働かせ、自己の生き方をつくること	人間科
【社会的な見方・考え方】 人の営みを多角的・多面的に考察し、持続可能な社会を目指してバックキャスティングやフォアキャスティングの枠組みを選択しながら関わり方を考えること	社会科
【言葉による見方・考え方】 言葉がもつ『機能』から言葉を『運用』し、言葉の『効果』を捉えること	言葉科
【数学的な見方・考え方】 事象を数学的な視点で捉え、目的に応じて数学的な表現を活用したり、論理的思考を働かせたりしながら、新たな概念や原理・原則を見いだすこと	数学科
【科学的な見方・考え方】 自然事象との出会いから生まれた問題を、仮説に沿って観察・実験し、科学的に解決すること	科学科
【芸術的な見方・考え方】 材や作品などの対象を、音楽的、造形的な視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会などと材や作品とを関連付け価値を認識していくこと	芸術科
【健康に対する見方・考え方】 身体、食、運動に関する自分の行動、周囲との関わり方を変容させ、自分にとっての納得解を見いだしていくこと	健康科

資料 2 7つの教科について	
教科	説明
人間科	人格に直接向かう、全教科の核となる教科である。本教科は、生きる意味や価値を見つめ直すことを通じて、自分や他者、生命や世界との関わりにある道徳的な問題を解決する過程の中で今の自分を受け入れ、ありたい自分をつくり自己形成を図る主体を育成することを目指す。特にありのままの自分の特徴や生きていく上で大切な価値を理解し、あるべき自分やありたい自分をつくろうとする省察性の育成を重視する。
社会科	子供と生活や社会を基に各教科を関連させる役割を担う教科である。本教科は、日常や社会の生活における問題を見だし、解決に向けて参画する活動を通して、日本を土台に世界に貢献する主体としての自覚や責任を培うことを目指す。特に日常や社会の生活における自己の役割や義務に気づき、日本に住む人間としての深い知見や良識をもって行動する協働性の育成を重視する。
言葉科	過去と未来、自分と世界の人と人がつながるために必要な言語という文化的側面を学ぶ教科である。本教科は言葉に関する課題を捉え、その解決を図る。日常生活の言語活動を通して、言葉の豊かな使い手を養うことを目指す。特に、言葉に関する課題について筋道を立てて表現し、他者と協働し合いながら、新たな自分の考えを創り出す創造性の育成を重視する。
数学科	人類が築き上げた数、量、形という文化的側面を学ぶ教科である。本教科では、数や形に親しみ事象を数理的に捉え、問題を他者とともに解決する活動を通して、自ら問いを見だし、数学的な概念や原理・法則を見いだしたり、それらを活用したりする力を身に付けることを目指す。特に、事象から数や形、量についての問題を見だし、論理的思考を通して、新たな考えや価値を見いだす創造性の育成を重視する。
科学科	自然事象との出会いから生まれた問題を、仮説に沿って、粘り強く観察、実験し、科学的に解決する資質・能力を育むことを目指す。特に自然事象を生命の連続性、地球（地層や天体）の時間的・空間的視点、粒子の質的变化、エネルギーの量的変化で捉えて問題解決することで科学的に妥当な考えを創る創造性の育成を重視する。
芸術科	表現欲求や感動体験を通して、人間が生み出した芸術という美を学ぶ教科である。本教科では、美を追究するために感性を働かせ、材や作品から美を感じ、思いや意図を明確にしなが表現する活動を通して、美的情操を培い美と豊かに関わることを目指す。特に感性と知性を一体化させ感受・知覚を往還させ、知識やスキルを習得・活用して新たな表現をつくる創造性の育成を重視する。
健康科	子供が生産にわたって心身の健康を保持増進するための基盤をつくる上で重要な教科である。本教科では、身体や食、運動に関わる課題解決に向けた体験的な活動を通して、自分と健康に関わる内容との関わり方を見いだしていくことを目指す。特に、知識や技能を用いて課題解決に取り組み課題を解決することで新たな知識や技能を発見したり身に付けたりする創造性の育成を重視する。

資料 3 本校版学習指導要領 QRコード集

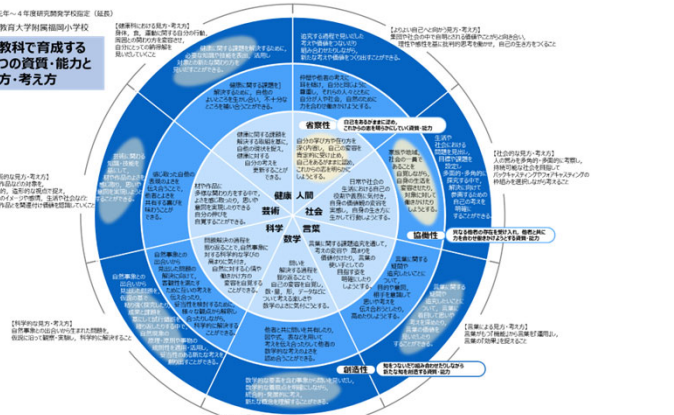
<p>< 総則 ></p> 	<p>< 人間科 ></p> 	<p>< 社会科 ></p> 	<p>< 言葉科 ></p> 
<p>< 数学科 ></p> 	<p>< 科学科 ></p> 	<p>< 芸術科 ></p> 	<p>< 健康科 ></p> 

資料 4 各教科で育成する3つの資質・能力と見方・考え方

令和元年～4年課程研究協議会決定（抜粋）
福岡教育大学附属福岡小学校

【教科別育成の見方・考え方】
教科・単元・学習活動・評価の観点から、各教科で育成する3つの資質・能力と見方・考え方を整理し、共通の育成目標を明らかにする。

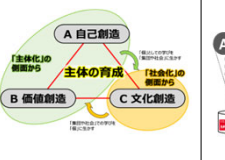

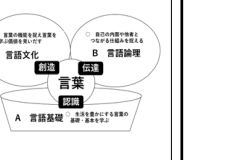

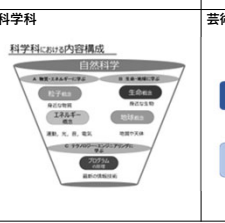
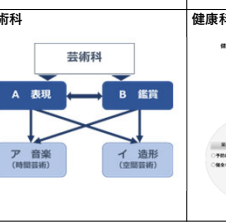

【各教科で育成する3つの資質・能力と見方・考え方】
各教科で育成する3つの資質・能力と見方・考え方を整理し、共通の育成目標を明らかにする。



資料 5 各教科の内容構成一覽

令和元年～4年課程研究協議会決定（抜粋）
福岡教育大学附属福岡小学校

各教科の内容構成を示した図

<p>人間科</p> 	<p>社会科</p> 	<p>言葉科</p> 	
<p>数学科</p> 	<p>科学科</p> 	<p>芸術科</p> 	<p>健康科</p> 

資料 6-① 方略と概念 (例：数学科)

教科の本質 見方・考え方 つよめる

概念 方略

事実的知識 概念的知識 個別スキル 個別スキル

「〇〇を通して、□□に気付く・理解する」
方略 概念

数学科における7つの方略

物事を捉える視点や思考の進め方
子供の学びの姿から7つに類型化

- 1つをつくる
- そろえる
- まとめる
- 置き換える
- しぼりこむ
- 変わらないものに着目

※それぞれの方略は領域固有ではない

数学科における5つの概念

- 数概念** 自然数や分数や小数で表現される有理数について、基数（集合数）及び序数として捉え、単位を用いて量を捉え、その単位で測り取った数値に対応させること
- 量概念** もの属性に着目し、単位を用いて量を捉え、その単位で測り取った数値に対応させること
- 図形概念** 身の回りにもあるものの形を図形として捉え、図形を并列したり、構成（作図）したり、図形の性質を明らかにしたりすること
- 関数概念** 複数の数量や事象間の依存関係から、ある数量が他のどんな数量と関係付けられるかを明らかにして、対応や変化の特徴を明らかにすること
- 統計概念** 身の回りの事象に対して、関係や傾向等を見いだしたり、そうした事象について正しく判断したり、推測したりすること

資料 6-② 現行指導要領と本校版の内容比較 (例示)

道徳科の内容項目

「人間力の9価値創造」の具体

- 自己→自立・自律
- 対人→対人成長・向上心
- 対社会→社会貢献
- 対文化→文化継承
- 対自然→自然共生
- 対生命・環境→生命の尊厳・持続可能性
- 対平和・国際→平和・国際理解
- 対多様性→多様な文化・価値の尊重

3-4年生 現行指導要領

国語科

【書くこと】
 (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意しながら、内容の構成を考慮すること。
 エ 書く内容の整理として、例えば、考えとそれを支える理由や、考えとそれを支える理由とを整理した関係に注意し、段落の構成を考慮すること。

言葉科

方略	概念
読書や目的を明確にして文章を読みとらねばならないことを意識すること	事柄の整理・整理
自分の考えを整理して書くこと	整理・整理

現行社会科

【書くこと】
 (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 イ 国語の学習活動を通して、事象と態度、事象と態度を区別するなど、話の構成を考慮すること。
 エ 自分の意見や感情など明確になるよう話の内容を構成する。接続詞や文末表現にも注意しながら、事象、態度などの関係を明らかにする。

言葉科

方略	概念
自分の考えを整理して書くこと	整理・整理
自分の考えを整理して書くこと	整理・整理

本校社会科

【書くこと】
 (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 イ 国語の学習活動を通して、事象と態度、事象と態度を区別するなど、話の構成を考慮すること。
 エ 自分の意見や感情など明確になるよう話の内容を構成する。接続詞や文末表現にも注意しながら、事象、態度などの関係を明らかにする。

言葉科

方略	概念
自分の考えを整理して書くこと	整理・整理
自分の考えを整理して書くこと	整理・整理

資料 6-③ 現行指導要領と本校版の内容比較 (例示)

算数科

【数と量】
 (1) 数と量に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 数や量とそれの単位、及び単位換算の関係を理解し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 数や量とそれの単位、及び単位換算の関係を理解し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 数や量とそれの単位、及び単位換算の関係を理解し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

数学科

方略	概念
数や量とそれの単位、及び単位換算の関係を理解し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	数の性質の理解
数や量とそれの単位、及び単位換算の関係を理解し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	数の性質の理解

音楽科

【歌謡・唱歌】
 (1) 歌謡・唱歌の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 歌謡・唱歌の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 歌謡・唱歌の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

芸術科

方略	概念
歌謡・唱歌の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	表現力の向上
歌謡・唱歌の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	表現力の向上

体育科

【運動】
 (1) 運動に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 運動に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 運動に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

健康科

方略	概念
運動に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	健康意識の向上
運動に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	健康意識の向上

図画工作科

【表現】
 (1) 表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

芸術科

方略	概念
表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	表現力の向上
表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	表現力の向上

資料 7 3つの学びについて

テーマ

リレーション

フォーカス

テーマ学習とは、子供と教師で設定した学年テーマの実現を目指し、各教科が解決のための役割を果たしながら1つの大きなプロジェクトとして教科横断的に進める学びである。

リレーション学習とは、ある教科で生まれた問いを解決するために、他教科と行ったり来たりしながら合科的・関連的に進める学びである。リレーション学習に関わるその教科も資質・能力が発揮され、価値ある学習となるのが前提となる。

フォーカス学習とは、教科の見方・考え方を育成し、それぞれの教科で育成したい資質・能力の発揮に焦点化した学びである。

資料 8-① カリキュラム・デザインの手順

フェーズ1 学級目標と学年テーマを話し合う

1年間のカリキュラムを終えた姿の共有

カリキュラム作成の手順

- 1 学級目標と学年テーマを教師と子供で話し合う
- 2 学年テーマからテーマ学習を教師と子供で話し合う
- 3 テーマ学習が各教科の内容を満たすか検討する
- 4 リレーション学習、フォーカス学習を設定する
- 5 各学習の実施
- 6 教師と子供でカリキュラムの見直し

よりよい学校・社会の担い手として、主体的に行動する子供

カリキュラム作成の手順

- 1 学級目標と学年テーマを教師と子供で話し合う
- 2 学年テーマからテーマ学習を教師と子供で話し合う
- 3 テーマ学習が各教科の内容を満たすか検討する
- 4 リレーション学習、フォーカス学習を設定する
- 5 各学習の実施
- 6 教師と子供でカリキュラムの見直し

教師と子供の願いを共有

1年後、どのような姿になりたいか(なつてほしいか)を話し合う。

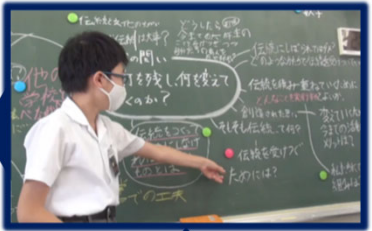
資料 8-② カリキュラム・デザインの手順

フェーズ2 学年テーマからテーマ学習を話し合う

テーマ学習（教科横断的学習）をつくる

カリキュラム作成の手順

フェーズ	内容
1	学級目標と学年テーマを教師と子供で話し合う
2	学年テーマからテーマ学習を教師と子供で話し合う
3	テーマ学習が各教科の内容を満たすか検討する
4	リレーション学習, フォーカス学習を設定する
5	各学習の実施
6	教師と子供でカリキュラムの見直し



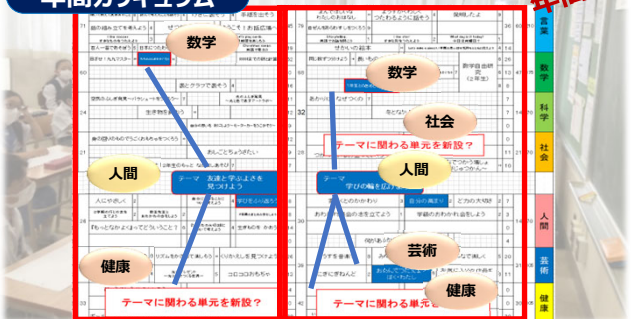
テーマ学習を話し合う
何を解決していきたいか、そのために各教科で何ができそうかを話し合う。

資料 8-③ カリキュラム・デザインの手順

フェーズ2 学年テーマからテーマ学習を話し合う

テーマ学習（教科横断的学習）をつくる

年間カリキュラム 年間2本



数学
社会
人間
芸術
健康

テーマに関わる単元を新設？

資料 8-④ カリキュラム・デザインの手順

フェーズ3 各教科の内容を満たすか話し合う

各教科部の教師が内容を満たすか助言する

カリキュラム作成の手順

フェーズ	内容
1	学級目標と学年テーマを教師と子供で話し合う
2	学年テーマからテーマ学習を教師と子供で話し合う
3	テーマ学習が各教科の内容を満たすか検討する
4	リレーション学習, フォーカス学習を設定する
5	各学習の実施
6	教師と子供でカリキュラムの見直し

学年テーマ (第2学年)

自分でできる、みんなとならもってできる！

＜具体的な案＞

教科部からの助言を基に修正

井手司 5/23 6月25日

創造性の高まりを、協働性が支え、それを省察性で捉えるという構造かと思えます。「みんなとならもって」を強調するならば、協働性にしぼってもよいかもしれませんが、そうするとテーマ学習案が絞りやすいと思います。


資料 8-⑤ カリキュラム・デザインの手順

フェーズ4 リレーション・フォーカス学習を設定する

教科を往還するリレーション, 焦点化するフォーカス

カリキュラム作成の手順

フェーズ	内容
1	学級目標と学年テーマを教師と子供で話し合う
2	学年テーマからテーマ学習を教師と子供で話し合う
3	テーマ学習が各教科の内容を満たすか検討する
4	リレーション学習, フォーカス学習を設定する
5	各学習の実施
6	教師と子供でカリキュラムの見直し



① **テーマ学習 (教科横断)**

② **リレーション学習 (合科・関連)**

③ **フォーカス学習 (焦点化)**

資料 9 教科ルーブリック・単元ルーブリックについて

基準合わせ
ア 各学年における目指す姿の共有

「1年後、このような姿になりたい」という**子供の願い**
 「1年後、このような姿になってほしい」という**教師の願い**

学年テーマの設定

省察性
協働性
創造性

カリキュラム

単元ルーブリックへの活用

省察性
協働性
創造性

学年末の子供の姿

各教科の育成したい資質・能力が示された教科ルーブリック

人間科 社会科 音楽科
 数学科 科学科 芸術科 健康科

基準合わせ
イ 各教科のルーブリックの作成
 目指す姿へと子供が近づいたか、
 教師が総括的に評価し、カリキュラムの
 変更、更新に活用する

資料 10 カリキュラム改善サイクル

変更、更新する対象

パターン1 学習指導要領に含まれる目標や内容
教科の資質・能力、内容の整理・精選、系統性の見直し

パターン2 年間指導計画内の単元配列
教科内の配列、学年内の配列など

パターン3 3つの学びの選択や単元構成、活動構成
子供に直接的に関わる部分、時数の軽重

カリキュラムの変更、更新

1 検証する単元を決定

2 モデレーションタイム
○ルーブリック
○参考作品など
▶目指す子供の姿の共有に特化!

3 授業実践

4 授業整理会
○アセスメントした子供の姿
▶共有した子供の姿から資質・能力の発揮を捉える

5 アセスメントによるカリキュラム改善サイクル

QRコード

<説明動画>

資料 11 カリキュラム変更、更新の3つのパターン

▶ カリキュラムの「何」を変更、更新するのか？

研究開発学校だからできる

変更、更新する対象

パターン1 学習指導要領に含まれる目標や内容
教科の資質・能力、内容の整理・精選、系統性の見直し

パターン2 年間指導計画内の単元配列
教科内の配列、学年内の配列など

パターン3 3つの学びの選択や単元構成、活動構成
子供に直接的に関わる部分、時数の軽重

資料 12 年間指導計画 (例：1年生)

R4年度 年間指導計画 第1学年
 学年目標：「がっころう たいすき！」

年間指導計画の表

<各学年 年間指導計画 11月時点>

QRコード

資料 13-⑤ 本単元までの組み立て

システムを意識したカリキュラム①

5月	7月	10月
ボールはこび シュートゲーム	じゃまじゃま キッチャゲーム	実践 力を合わせて ボールエネルギーを あつめよう

システムを意識したカリキュラム②

5月	7月	10月
ボールはこび シュートゲーム	じゃまじゃま キッチャゲーム	実践 力を合わせて ボールエネルギーを あつめよう

システムを意識したカリキュラム③

5月	7月	10月
ボールはこび シュートゲーム	じゃまじゃま キッチャゲーム	実践 力を合わせて ボールエネルギーを あつめよう

各単元の学習内容と評価ポイントが詳細に記載されています。

資料 13-⑥ 指導の実際

単元導入

指定されたボールエネルギーを獲得するというストーリー性のある鬼遊びに出合い、単元の目標を話し合う。

単元展開

ボールエネルギーの位置や個数を変えながら、鬼遊びを行う。

単元終末

チームに合ったルールを選択して「ボールエネルギー解放ゲーム」を行い、鬼遊びの楽しさの広がりについて話し合う。

新たな鬼遊びとストーリーと出会う。 ミッション！ ボールエネルギーを8こいじょうあつめよう！

MISSION達成のため個で空間に走り込む。

単元の目標について話し合う。

鬼が誰かに引きつくと、そこにスペースができるから、そこに走り込むといいよ。

1人で突破するのではなく「みんなで突破することを考えるといいよ。

資料 13-⑩ 5年生 科学科 フォーカス学習「ビー玉コースター」

実践者 大橋 翔一郎

指導案PDF QRコード

学習目標

単元目標

実践目標

指導案PDF QRコード

学習目標、単元目標、実践目標が詳しく記載されています。QRコードも提供されています。

資料 13-⑪ 指導の実際

単元導入

ループコースターを成功させる方法と追求したいことを話し合う。

単元展開

ループを成功させるために必要な条件について調べる。

単元終末

オリジナルのコースターを作成する。

ループコースターに出合い、球が落ちずにループを成功する条件について話し合う。

球の重さを減らしても、速さは変わらない。

重さの観点

高さの観点

球の重さを変えても、速さは変わらない。

速さの観点

ループが成功する条件について、速さと高さ、距離、重さの関係性を調べる。

重さの観点

高さの観点

速さの観点

ループを成功するときの条件は何か？

追求する条件

球の高さ

動く距離

球の重さ

球の高さを減らして、速さは変わらなかった。

速さを減らして、速さは変わらなかった。

速さを減らして、速さは変わらなかった。

速さを減らして、速さは変わらなかった。


資料 13-12 6年生 言葉科 リレージョン学習「心を動かすプレゼンテーション」

実践者 大村 拓也

資料科の学習

言葉科の学習

指導案PDF QRコード



資料 13-13 指導の実際

単元導入

単元展開

単元導入

単元展開

単元導入

単元展開

資料 13-14 子供に開くカリキュラム

1年人間科 (宇戸実践)

2年人間科 (宇戸実践)

3年人間科 (宇戸実践)

4年人間科 (宇戸実践)

5年人間科 (宇戸実践)

6年人間科 (小島実践)

<学年テーマの設定>

- どのような1年にしたいのか
- そのために、どのようなことをする必要があるか
- 1年後、自分はどのようにになりたいか

<教科開きの様子>

- どのような学習あるのか
- この教科はどのような教科か
- 楽しみなどは何か
- どのような自分になれるか

資料 13-15 子供に開くカリキュラム

6年人間科 (小島実践)

4年社会科 (井手実践)

5年社会科 (井手実践)

<テーマ学習の構成>

- テーマの実現のために何をするのか
- テーマ内の言葉の示す具体的な姿はどのような姿か
- どのような学習をすることでテーマの実現に近づくのか

<単元内で文脈を重視する様子>

資料 13-⑥ 4年生 人間科 テーマ学習「成長する自分たち」

実践者 宇戸 勝則

本テーマの価値について

本テーマでは、自分の成長を通して、これからの人生の方向性を考えるという学習目標を設定し、これまでの学習を通して、自分自身の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。そのために、本テーマでは、人間科を中心に、自分自身の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。そのために、本テーマでは、人間科を中心に、自分自身の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。

人間科の学習目標

○ 本単元では、自分の成長を振り返り、これからの人生の方向性を考えることを目指しています。そのために、本テーマでは、人間科を中心に、自分自身の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。


実践的学習

実践的学習は、個人やグループでの学習活動を通じて、自分の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。そのために、本テーマでは、人間科を中心に、自分自身の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。

学習の振り返り

学習の振り返りでは、自分の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。そのために、本テーマでは、人間科を中心に、自分自身の成長を振り返り、自己肯定感を高めることを目指しています。

指導案PDF QRコード



資料 13-⑦ 指導の実践

単元導入

学年テーマ「One for All for one」の実現に向けて、追究課題を話し合う。

単元展開

問いの解決のために各教科で学びを追進する。

単元終末

追究したことを用いて問いが解決できたかどうか話し合う。

健康科の学び

自分の見た目(身長や体重)が成長しているだけでなく、心も一緒に成長しているんだ。

芸術科の学び

1年生のときに描いた絵と比べると、細部にこだわったり、色や形に意図を持たせたりしているね。

言葉科の学び

自分の名前には、たくさんの願いがこめられていて、自分もその期待に応えたい。

人間科の学び

昔からの自分を振り返ると、昔の自分に成長を感じているよ。色や形に意図を持たせたりしていることに気付いたよ。

本実践を通したカリキュラム改善

単元展開 問いの解決のために各教科で学びを追進する。 単元終末 追究したことを用いて問いが解決できたかどうか話し合う。

各教科で感じたこと、教科の学びを振り返る振り返りシート、問いの解決のために各教科で学びを追進する。 単元終末 追究したことを用いて問いが解決できたかどうか話し合う。

資料 14-① チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

「友達と支え合う力」

チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

「身の回りの歪曲」

チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

「友達と支え合う力」

チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

「身の回りの歪曲」

チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

「友達と支え合う力」

チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

「身の回りの歪曲」

チャレンジ紹介動画、チャレンジ論文

資料 14-② チャレンジ論文

「作品に思いを込める」

チャレンジ論文

「遠泳について知ろう」

チャレンジ論文

「作品に思いを込める」

チャレンジ論文

「遠泳について知ろう」

チャレンジ論文

「作品に思いを込める」

チャレンジ論文

「遠泳について知ろう」

チャレンジ論文

資料 14-③ チャレンジに関するアンケートの結果（自由記述）

- <児童アンケート>
- 自分たちが追究したい問いをあまり先生を頼らずに他の学年の人と自分たちだけで追究するのが楽しい。
 - 自分が不思議だなと思うことを調べ、分からなかったことが分かるようになるから楽しみです。
 - 自分が本当に楽しいと思っていることを追究するのが許されているし、やっていて練習の時や、みんなの前で今週の成果を発表する時に「前よりうまくできた!」や「いつも間違えていた部分でできた」と嬉しくなります。
 - 同じテーマの班の仲間と、楽しく、そして真剣に、議題について思考し、考えを深める時間が一番楽しみです。
 - 毎日、実験をして考察してまとめるの繰り返しだけど失敗したら次にどうすればよいかを考えることができし、成功したら嬉しいその繰り返しで自分を深めることができている。
 - 自分の作りたいものを作ることができるし、時には友だちと協力して作ることもできます。同じようなものを作る人達がグループとして分けられるので友だちの自分とは違ったやり方を見ることができ、新たなアイデアを作ることができます。自分の技術が上達することや作品が完成していくことができてとても楽しいです。
- <保護者アンケート>
- 日本の社会はチャレンジできる機会が少ないと感じる。周りと切磋琢磨し、自身のゴール設定ができ、邁進できるチャレンジはとても良い取り組みだと感じます。
 - 自分が選択したチャレンジで、課題を掲げ仲間と取り組み学びを深めている、生徒主体の授業が良いと思う。本人がイキイキとしているし、学校生活の楽しみのひとつになっているようです。
 - 科学のチャレンジがある日を毎週楽しみにしていて自分が、何故?やってみたい!と感じる事を実践できている貴重な時間だからです。
 - 一つのことを一年かけて何度もチャレンジした。成功も失敗もさせて頂き、より工夫できるようになったところが良い点だと思う。
 - 専門分野を先生方や友人と追求する事で学問イコール楽しいという感覚を培っている。チャレンジのある日の意欲が高く、休まないように体調を整えている。

資料 15 保護者アンケートについて（自由記述）抜粋

福岡小学校のカリキュラムをどのように感じられていますか。

教科が7教科と言うことで一つの物事を学んだ際、複数の教科を関連させる(各教科からの視点を持つ)ダイナミクスな力を鍛えていると感じるため。日々の娘の表情が生き生きとワクワクしている様に感じる。

良い面は、串刺しでリンクしていく学習は子どもの探究心が生まれ、学習が自分達の思考の先を行く形で進んでいく事に、面白さを感じられると思います。不安な面は、串刺しされずに外れた学習の中に、公立との差を親が気付くにくい部分です。

子供を中心にしたこれからの世の中に必要な考え方ができるカリキュラムであることにとても満足しています。

それぞれ特色がある教科ですが、教科と教科の境目がわからない教科もある気がします。けれど、そこを先生方がうまく楽しく学習に繋げていただいているのをとても感じます。

本校のカリキュラムだからなのか子供達の自主性や探究という点が優れているなど感じます。最後までワクワクするような内容で子供達を惹きつけている授業に魅力を感じます。

時代の流れが変化中、世界の教育の変化やテクノロジーの進化も取り入れながら、より良い学習を研究していただけていると感じております。

色々な側面から物事を見る力、深く掘り下げて考え行動できる力が身に付いてきていると感じるから。また自分と違う考えも尊重し受け入れる、認め合うことができるようになってきていると感じるから。

資料 16 卒業生アンケートについて（自由記述）抜粋

年度末の実施報告書に詳細は記載予定

福岡小学校では教科の枠組みを変えたり、学習のやり方を子供たち自身が考えたりして学習できるようにしてきました。そのような福岡小の学習をどのように感じられますか。

<卒業生>

他の小学校では学習できないような内容の学習が小学生の内から学べたのは良かった。社会で求められる力である、知識をただアウトプットするのではなく、他者に説明する力を育めた。

言われた通りにやるのではなく、自主的にする事が出来たので、とてもやり甲斐を感じました。それに加えて、自分たちが授業をすすめるのだと考えるととても楽しい気持ちでいっぱいでした。

自分たちが授業を考えることによって、思考力が上がり、普段の生活に生かすことが出来たため。また、自分たちのやりたいことをとんとんすることが出来たため

とてもおもしろくなる授業ではあったけど、受験勉強にはあまり役立たなかった

<卒業生保護者>

教科の枠組みについて子どもから聞くことと確かにと思わされることが多かったです。学習に関しても「自分達で考えた」この場合は積極的に取り組んでいた気がします。(そんな時は家で学校のことを話してくれました)

スタートアップやインバウンド、クラウドファンディングなど、話題になり始めのことに正しい知識を持つことの大切さなど、子どもたちは知ることができたように思う。また、子どもはもちろん、親も話を聞くことによって視野が広がり、家庭での会話やニュースに反応できたのもよかったです。

ひとつの答えにとらわれず、多数の考えを持つことができ、良かったと思います。

資料 17-① 研究推進について

220527_研究開発学校連絡協議会

福岡小のこれまでの「つまずき」と取り組んできたこと

福岡県教育大学附属福岡小学校 研究部長 神 幸 司

「みんなで」進めるためには?

研究推進

- ▶ 担当研究部
 - ・先生1人ずつに担当
 - ▶ 共同研究者/研究協力者
 - ・大学の先生、本校OBにいつでも相談
 - ・一緒に研究をつくってもらおう
 - 実践者(先生)が一人で抱えない
- ▶ 場の設定
 - ・グループごとに
 - ・学年/教科/本文
 - ・それを毎月2回開催
 - ▶ ICTで共有
 - ・スプレッドシートへ
- ▶ 考えの発信
 - ▶ 研究授業のふりかえり
 - ・フォーラムを使って、考えを収集
 - ・コメント付きで返答
 - ▶ 研究をどうしたいか
 - ・研究の詳細(評価計画から)
 - ・研究の方向性、改善点
 - ▶ 授業記録(研究部長から)

つまずき① 研究開発学校って何なの?

先生たち

- ▶ 研究開発研究会
 - ・毎月4回
 - ・制度
 - ・研究内容
 - ・研究開発課題
 - ・スケジュール
- ▶ PTA総会(研究発表)
 - ▶ 懇談会・通信(様式)
 - ▶ 子供の様子

不安感⇒期待感へ

安心感+応援

子供たち

- ▶ 全校研会(研究部)
 - ・何が違うか
 - ・何ができるか
- ▶ 日々の生活(様式)
 - ・共通して開催付け

08

- ▶ 共同研究会
 - ・年3回
 - ・7月、11月、1月
 - ・研究の進捗
 - ・学習公開

特別感/わくわく感

応援いただける体制

つまずき② 成果としてアピールするのほど?

計画書に載る

- ▶ 研究開発課題...何を明らかにする研究か
- ▶ 特例...何を認められた研究か
- ▶ 評価計画...どのように進める予定か

先行研究

- ▶ レビュー...どのような理論に基づくか
- ▶ 他校の研究...これまでの開発は
- ▶ 他校への視察...具体的に何をしているか

「そもそも」に戻る

根拠や裏付け、どこを狙うか

運営指導委員会

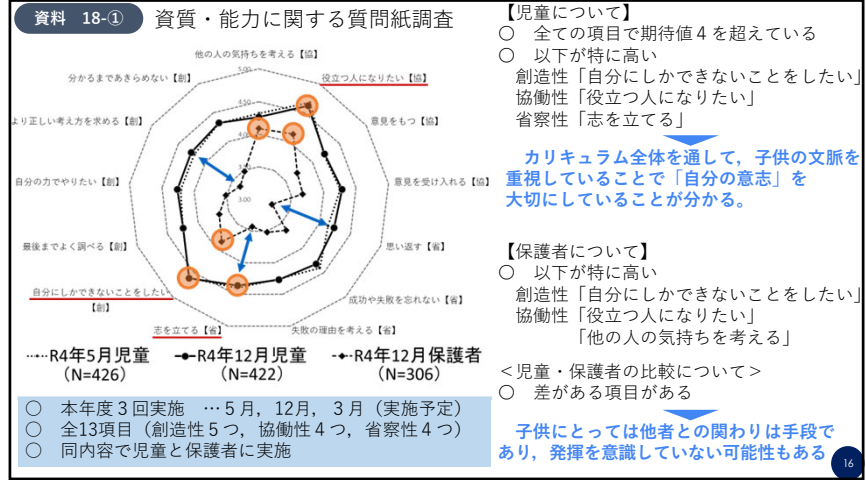
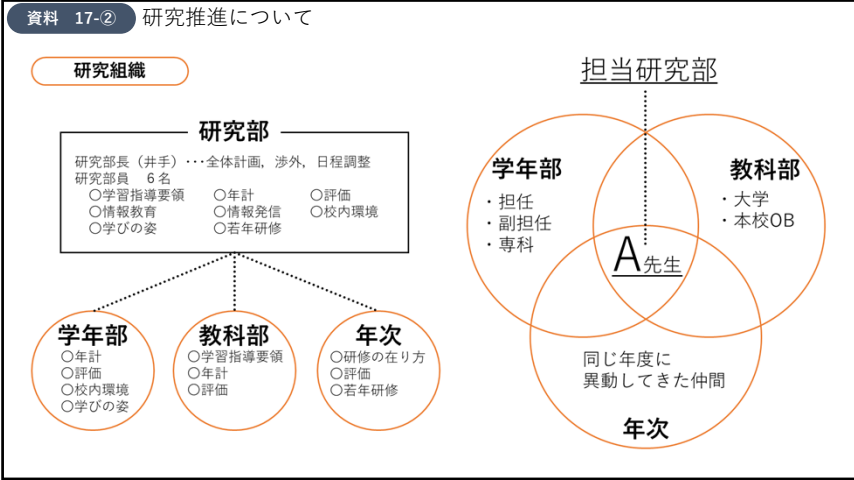
- ▶ 運営指導委員会...何に意見が欲しいか
- ▶ 日々の相談...悩んだときに意見をもらう
- ▶ 授業公開と整理会への参加

積み分け

- ▶ 学校現場の「今」にマッチしない可能性
 - ・これからの指導要領に生かされるという意識
 - ・研究発表会での主張と報告書の主張点

外部の目で客観的に

出す場によって成果は違う



資料 18-② 職員アンケート（自由記述）

研究開発に関わる中でご自身の成長を感じたり、教育観が変わったりしたものがありませんか。

とにかく1つ1つのことに立ち止まり、悩むことが多かったのですが、学ぶことが楽しい、もっと学びたいとすることができています。目指す子供像をイメージしながらほぼ毎日のように子供の姿を基に他の先生方と話をすることができ、これまで以上に子供のことをよく見て、子供の目線で授業を組み立てることができるように少しはなってきたのではないかと思います。また、授業外での子供の様子も、「あの授業の・・・。」と結びつけて考えることができるようになったと思います。（本校1年目）

附属小に来る前は、導入に時間をかけて、その1時間を自分が思った通りに流して行くことを大切にしていた。しかし、この学校に来たから、子供がしたいことや考えたいことを大切にするという意識が変わった。それは時に想定していた方向にいかないこともあるが、それを楽しみながら授業ができるようになった。そこは自分の成長ではないかを感じる。（本校1年目）

本校の開発研究を通して、子供のニーズに応じることの大切さを学びました。今までは、教師が学習指導要領や教科書に載っているからと指導内容を強引に子供に押しつける例も自分自身何度もありました。しかし、今は教えた内容と子供に考えさせたい内容を整理し、子供がそれを「やりたい!」、「もっと知りたい!」と思うことができるようにするために、どうすればいいのだろうか?と考えるようになりました。また、今までは学習指導内容の習得のみにこだわって、思考する楽しさやつくりだす楽しさを子供から奪っていたようにも感じます。何を教えて何を考えさせるのか改めて整理し直すことで、少しずつ自身の専門とする教科の特性が少し見えてきたように感じます。自身の成長については、子供の発言や姿からどんなこだわりをもって授業を受けているのか考える中で、授業を見るのが楽しくなってきました。本校の研究スタイルでは、他教科の授業の動画も見ることができます。他教科・他学年の授業をビデオで視聴することで、発達段階の違いを捉えたり、学年間のつながり、教科間のつながりを感じることができるかと考えます。（本校1年目）

大きく授業観が大きく広がりました。コンテンツベースではなくコンピテンシーベースが大切だと頭では分かっていたのですが、実際に授業で具現化できるようになってきたと感じています。コンピテンシーベースの授業を具現化するに当たって、一斉型の学習から、グループや個に応じた学習へと幅が広がったと感じています。一斉型の学習から学習のスタイルが広がったことで子供の見取りの大切さが分かりました。コンピテンシーベースなので、目の前の子供にどのような力がついているのか、また、これからどのような力を付けていきたいのかが大切であると感じ、意識できるよう読む本の種類も広がりました。（本校2年目）

資料 18-③ 職員アンケート（自由記述）

研究開発に関わる中でご自身の成長を感じたり、教育観が変わったりしたものがありませんか。

まだまだ、詰めが甘く、未熟な部分は多いですが、学習プリントや交流の形式、板書の構造一つ一つを立ち止まって考えるようになりました。一つの授業にこだわるところは変わっていませんが、こだわり方が変化したように思います。また、子供にこんな力を身につけさせたいというものが独りよがりだった部分が大きくありましたが、今は、文献や社会情勢を鑑みて、本当に身につけさせたい力から教材を選定する意識が高まったと感じます。（本校3年目）

全ての部分で子供主体のカリキュラム・授業実践を行っていくようになったことが変わったことだと感じています。例えば授業では、「教師がどのような手だてや活動を設定していたのか」ということよりも、「子供がどう感じ・何をしていたのか」という視点から、授業を見たり、自分自身も構成したりするようになりました。一単位時間の実践だけではなく、1年間や6年間を通した長期的な視点で実践や教育活動をするようになったことが変わったことだと感じています。教科の縦・横のつながりだけでなく、子供の前学年、後学年のことも含めて実践できるようになったのは成長だと思っています。（本校4年目）

コンピテンシーベースの授業づくりというものが特に変わった。日頃の授業づくりにおいても自然と意識するようになったし、授業中の子供たちへの声かけもこれまでと比べて変わったように感じる。「本質」は何か?と常に考え、今現在の枠組みの中だけで思考せずに、どのような在り方が望ましいのかを考えるようになった。その上で、それを現在の枠組みの中にどう実践として落としこんでいくのかを追究するようになった。（本校4年目）

新たな3資質・能力や教科の枠組み、学習指導要領本体をつくる大きな仕事によって、言葉とは、国語とはそもそもから何度も繰り返し直し、認識や思考、伝達や創造といった言葉の機能まで掘り下げて存分に考えさせていただいたこと。また、日本語と英語を往還する言語文化の内容設定や、極限まで必要な言葉の力に焦点化し新内容を見いだした言語論理の内容設定など、言葉の学習としての理想型を追究できたことです。これらの研究を通して言語教育観が大きく変わりました。具体的には、メタ言語能力や訴求力といった言葉も持っているポテンシャルを子供が言葉を使って生き生きと学ぶ具体的なレベルまで落とし込んで、授業の実際、学習の実際として見だせるようになったことです。さらに、カリキュラム・デザインとして配列や教科横断を生む仕組み、ルーブリック型目標設定の在り方や改善サイクルも見いだすことができるようになったことも成長だと考えています。（本校5年目）